

よくあるご質問

1. 説明資料 Slide-9 について

Q：無形資産の償却 / 非償却の内訳はどうなっているか？

A：無形資産の多くは償却されますが、非償却の Pilkington ブランドは約 30% を占めています。

Q：Pilkington ブランドの減損テストの方法は？

A：まず各事業に対して、無形資産・のれん・有形固定資産・運転資本を配分し、事業資産とします。次に各事業の将来キャッシュフローを見積り、現在価値に置き換えます。この2つの数字を比較し、前者 > 後者であれば、まず のれん を減損させます。のれん を全て減損させてもなお余りがあれば、のれん 以外の事業資産を減損させます。以上が IFRS の減損アプローチであり、割引率等、減損テストに使用した前提は、FY12 の IFRS 決算において開示する予定です。

2. 説明資料 Slide-18 及び 31 について

Q：退職給付未認識債務の一括認識の地域別内訳と、退職給付にかかる繰延税金資産との関連は？

A：地域は、主に米国、英国、ドイツ、日本です。未認識債務の発生原因は、予想死亡率を高く（保守的に）見込んでいたことと、（期末の退職給付債務算定時の）割引率を引き下げたことです。（Slide31 にある通り）250 億円の退職給付の調整に対して、（Slide-18 の通り）約 70 億円の繰延税金資産を計上しており、繰延税金資産はおおむね 30% の税率で算定しています。

Q：退職給付債務に関連して、FY12 における数理差異即時認識に伴う包括利益への影響はどうか？

A：FY12 の即時認識は、その他包括利益（Other comprehensive income）を通じて包括利益に反映されます。しかし、FY12 の影響額については、年金資産や割引率といった市場のボラティリティーに左右されるため、現時点で予測できません。

Q：（マイナスの）数理差異の即時認識が包括利益に影響するということは、BS 純資産が減少するとの理解で良いか？

A：その通りです。例えば FY10 では、（Slide-31 の通り）250 億円の数理差異の即時認識により、繰延税金 70 億円の調整後、純資産が 180 億円減少しています。

なお、FY10 で即時認識した数理差異の主な原因は、年金負債計算の割引率の低下です。ここ数年間、より保守的な予測（長寿化）に基づく率を適用したため、数理計算上の負債が増加いたしました。

3 . 説明資料 Slide-37 について

Q : のれん及び Pilkington ブランドの減損テストについて、減損判断の基準と減損の可能性並びにテスト実施のタイミングは？

A : 減損テストは、各事業 (Business) 単位で実施いたします。今の所、減損が必要となる水準までまだ余裕があり、また事業業績も改善中のため減損は起きていません。テストは少なくとも年 1 回期末に (3 月。その時点の事業予算・予想を織り込んで) 実施いたします。また期中でも、減損の兆候があれば、随時実施いたします。

4 . 説明資料 Slide-40 について

Q : 繰延税金費用の調整により、キャッシュフローへの影響はあるか？

A : キャッシュフローへの影響はありません。繰延税金は、単に会計上の税金費用の処理にすぎません。

以 上